

2019 年 5 月 22 日

小宮山 功一朗 様

情報通信学会事務局

査 読 結 果 報 告

先に、投稿のありました下記の論文は、編集委員会において「論文」として学会誌に「条件付採録とする」との判定がなされた旨、通知がありましたのでお知らせいたします。

査読結果について、別紙のようなコメントが出されました。参考にして修正ください。また、修正した論文のご提出にあたり、修正・変更の履歴一覧を添付して下さい。提出期限は下記の通りです。また、修正いただく際にも指定文字数を超過しないようお願い申し上げます。

なお、修正論説をお送りいただく際、筆者のプロフィールと写真を添付してください。プロフィールの分量等は学会誌を参考にしてください。

提出期限 6 月 10 日（月）

<論文表題>

サイバーセキュリティにおけるインシデント対応コミュニティの発展
— 目的、機能、文化から見る CSIRT —

* ご不明な点などありましたら、事務局までご照会下さい。

連絡先：

（公財）情報通信学会事務局

〒100-0013

東京都千代田区霞が関 1-4-1 日土地ビル 11 階

TEL: 03-5501-0566 FAX: 03-5501-0567

E-mail office@jsicr.jp

審査結果報告書

令和元年 5 月 22 日

情報通信学会編集委員会

1. 投稿概要

受付番号	31-7	投稿日	平成 31 年 3 月 1 日	区分	1. 論文	2. 論説
表 題	和 文	サイバーセキュリティにおけるインシデント対応コミュニティの発展 —目的、機能、文化から見る CSIRT—		原稿	16 枚	
				本文	17,945 字	
				図表	1,650 字相当	
	英 文	Cybersecurity Incident Response Community: Conceptualizing CSIRTs by aim, function and culture of reciprocity.		要旨 (和)	325 字	
				要旨 (英)	135 word	

2. 審査結果

区分	1. 論文		2. 論説		
処置	1. このまま採録	2. 条件付採録	3. 再提出再審査	4. 不採録	
項目ごとの評価	良い	⇔	普通	⇔	悪い
	5	4	3	2	1
	分 野	(4)	
	有効性	(3)	
	新規性	(4)	
	信頼性	(3)	
	論理性	(4)	
	体 裁	(4)	
総評 (評価すべき事項、問題点等)	セキュリティ事故の事後対応対策における組織化としての CSIRT について、組織関係者を中心とした「定義」に関する議論に対して、研究分野からの「概念」化（目的，機能，文化）を試みた新規性・有用性を有する論文で、筆者の「概念」化のプロセスが先行研究や実証研究から論理的に示されており、情報通信研究においてふさわしい論文と評価しうる。しかしながら、その概念形成にあたって、リスク共有といった根本理念や論理展開上の根拠に精査すべき点もあり、それらの加筆・修正を求めるところである。				

3. 審査報告

(改稿すべき箇所及び改稿すべき理由、照会事項、評価すべき事項、不採録の理由等)

以下、査読者からの改善要求点につき、加筆・修正が望まれます。

【査読者 A】

「概念」化の論理が「目的」、「機能」、「文化」の3つのレンズを通して鳥瞰されていると考えられるが、前2者（「目的」、「機能」）が実証的事例を基に論証されているのに対して、本稿の根幹をなすと考えられる「文化」の部分において、なぜ「互惠主義」が最も重要であるかを示す論拠の部分の弱いと考えられる。もちろんインターネット文化自体が互惠主義に基づくものであるが、本稿において先行研究に比して筆者が互惠主義を CSIRT 文化の中心と捉えなおすためには事例（実証研究）についてさらに具体的な根拠を示した論述が必要であると考えられる。具体的には 12 頁 5.2 の「互惠主義の発露」の部分の論述であり、歴史的事実等の論拠、出展を示すことでより論理が明確になると考えられる。

また、細かな点であるが、7 頁 6 行目～7 行目、「この中で本研究が着目するのは、サイバー空間における被害者の救済と復旧を目的としたグループである。インシデント対応というグループに分けることができる。」の部分は記述ミスと思われるが、論理がつながらなかった部分である。

【査読者 B】

- ① 多くの読者、特にインターネット技術者などにも理解が可能なように、組織の概念の規定することの意義を述べてください。
- ② 目的、機能、文化というレンズを通すことの必然性を明らかにしてください。
- ③ 本論文であげる CSIRT は、国家 CSIRT のことと読めますが、組織（企業内）CSIRT ではないことを明示してください。企業内 CSIRT も互惠主義を特長とします。
- ④ 目的における被害者の救済と復旧は、論文にもありますが、30 年前の目的と想定されます。これを現代の CSIRT への目的に当てはめる必然性を明らかにしてください。組織は、環境の変化により変化していくものであるため、現代の CSIRT の目的をもって概念化する必要があるのではないのでしょうか。
- ⑤ リスク社会において、サイバーセキュリティに関するインシデント対応能力として、CSIRT を設置することは、リスクの共有化を図ることが重要な論点になります。リスクを発見し制御するには、リスクの共有化が重要です。本論文における組織概念を規定する際に、リスクの共有化が含まれていないことに違和感を感じます。この点の著者の考えを述べてください。